

第1回検討会における質問、提案に対する回答及び今後の取り組み案

プラスチック廃棄物の発生抑制

小区分	第1回検討会での意見・課題	回答、今後の取り組み案
環境教育	小学4年生に対する環境教育（環境チャレンジ10）	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ10（参考資料1）において、プラスチックについての取り組みを増やす ・子どもの目に触れるものに、リサイクル品を使用する。（例：横断歩道の旗の棒）
	市内の学生の環境プログラムへの参加	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や児童を対象に可燃ごみの分析を体験する →実際にごみに触れることが良い経験になる
啓発	CO2の削減量など「目に見える形」での啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ10の教材のように、分別したらどれほどのCO2が削減されるかを、例を挙げて分かりやすく紹介
バイオマスプラスチックの導入	ごみ処理費用内訳の推計	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理費用内訳（参考資料2） ・プラスチックの処理（リサイクル）はコストが高いが、資源の有効活用、燃やすことでのCO2の発生を抑制することが重要 ・ごみを焼却する際、生ごみだけの場合と紙やプラスチックが混入している場合、燃焼コストや燃焼効率ほどの程度変化するのか検証 （クリーンピア射水のごみ焼却炉は流動床式焼却炉のため、ごみ質カロリーの違いによる燃焼コスト等の影響は少ない。ごみ焼却計画値は1,800Kcal、1,100～2,700kcal範囲） ・バイオマスプラスチック製のごみ袋を燃えるごみ収集指定袋として導入することを検討（製造業者確保の目途あり）

資源プラスチックの収集

小区分	第1回検討会での意見・課題	今後の取り組み・展望（案）
収集	市直営での資源回収ステーション設置（プラ容器）	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも利用できる資源物常時回収ステーションの設置（市直営）や収集回数を増やすことを検討 ・5か所ほどの設置場所（市有地等）を検討 ・資源回収団体と設置方法や費用負担等を協議調整予定
	他の自治体とプラごみ回収量を比較し施策を参考にする	<ul style="list-style-type: none"> ・射水市の回収量（市民一人当たり）は県内の中でも低い。内訳（理由）を調査する
分別の推進	燃えるごみに含まれるプラごみ量の推計（事業系一廃・アパート）	<ul style="list-style-type: none"> ・市のごみ収集ルートに入っていない一般廃棄物の中に含まれるプラスチックの調査 事業系ごみ 分析調査を行う アパート等 資源ごみの排出方法 ⇒ 資源物常時回収ステーションの利用促進 ※推計の結果 少なくとも市人口の7%以上は市収集対象外

分別の推進	市民の意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ上でアンケートを実施 別紙2 ・県立大学生の協力を得て、調査対象を学生の家庭にする等 ・学生の研究テーマ
分別の推進	プラごみ処理工程の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンピア射水、ミライクル館の見学（見学に来る小学校もあるが、大人が見学する機会が無い） ・リサイクル施設（株富山環境整備）の施設見学 ・白色トレーに色付きトレーが混在すると、リサイクルにはどの程度影響があるのかを調査
	プラごみ処分・リサイクル方法の分かりやすい指標	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみの分別や処理方法について、市民に分かりやすく啓発していく方法を検討する ・令和4年度に見直しされる、分別方法の変更と併せて啓発
	プラスチックごみ問題解決に向けたキャッチフレーズを市民から募集	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に開催予定の環境とくらしフェアにおいて募集する。小中学生を対象とした環境ポスター等の募集と併せ、キャッチフレーズを募集し、令和4年度以降にキャッチフレーズ入りの燃えるごみ収集指定袋を作成、販売し啓発する

廃棄プラスチックの回収

小区分	第1回検討会での意見・課題	今後の取り組み・展望（案）
海岸ごみ 海洋ごみ	海洋ごみ（海中、海底、漂流）の推計	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で市における推計は困難 環境省の平成30年度の調査報告書（参考資料3） ・ごみのポイ捨てを無くす手段を検討 道路の路肩に多くごみが捨てられている。歩行者や自動車からも捨てられている ・公園などの公共施設にごみ箱を設置する ごみ箱にごみを捨てる人はそもそもポイ捨てをしないので効果はないと思われるが、資源ごみ常時回収ステーションと合わせて試験的に公園にごみ箱を設置しポイ捨ての状況を検証する
	海洋ごみ処分費用を県や市で負担	<ul style="list-style-type: none"> ・県において体制構築に向けて計画中 （処分費用は行政が負担）